

平成 31 年度 事業計画

1. 基本方針

平成 31 年度、社会福祉法人 日本介助犬協会は法人設立 15 周年・介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～開所 10 周年を迎えます。

これまで当会を支えて下さったご支援者様、ボランティアの皆様、地域の皆様をはじめ、すべての関係各位に深く感謝申し上げます。

これからも「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」をモットーに、良質な介助犬の育成を通じて肢体不自由者の自立と社会参加を支援して参ります。引き続きのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

今年度も介助犬育成事業を中心に、後述の各種事業に注力して参ります。今年度事業計画において、特に傾注すべき活動は次の通りです。

1. 繁殖技術・体制の強化

良質な介助犬候補犬を得るために、繁殖技術・体制の強化を図ります。

海外から講師を招聘し、繁殖・パピー育成コンサルティングを受けるほか、海外から凍結精液の導入、獣医師の協力のもと人工受精手術などを実施します。また、諸外国の補助犬団体と育成や繁殖に関する交流を充実するために ADI (Assistance Dogs International) への認定申請手続きを進めます。

2. 肢体不自由者・介助犬希望者への支援体制の拡大

北海道せき損センター(北海道)、総合せき損センター(福岡県)にて、脊髄損傷の患者様に向けた介助犬啓発イベントを実施します。

3. 補助犬・身体障害者補助犬法の啓発

介助犬フェスタ 2019、介助犬総合訓練センター開所 10 周年記念式典をはじめ各種啓発イベントを実施し、補助犬・身体障害者補助犬法の認知度向上に努めます。

4. 医療現場への犬導入支援

地域公益活動として取り組む動物介在活動(AAA)・動物介在療法(AAT)を引き続き実施し、医療専門職をハンドラーとして養成するなどの活動に努めます。

5. 事業運営基盤の強化

安定した事業継続のために、寄付収入増収施策の立案・実施体制を強化する組織づくりを行います。併せて、コストダウン施策を実施し貴重な寄付をより活動に活かすことを目指します。

社会福祉法人 日本介助犬協会
理事長 伊藤利之

2. 取組事項

1. 介助犬育成事業

リハビリテーション専門職と連携を図り、介助犬希望者に対して個々の障がいにあった介助犬を提供する。介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～に於ける体験・合同訓練および在宅訓練の指導を行う。

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬を育成し、3～5名の肢体不自由者(新規2～5名、代替え0～1名)に対し介助犬の貸与を実施する。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 25頭の新規候補犬に対し、評価及び訓練を実施する。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導を行う。

③ 繁殖犬メス4頭から25～30頭のパピーを確保する。繁殖犬オス2頭の子返しとして1～6頭のパピーを確保する。

④ 国内外の補助犬育成団体より1～2頭の訓練犬候補の成犬を購入する。

⑤ Career Dogs Australia より凍結精液を購入する。

⑥ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、人工授精手術を行う。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 介助犬使用者22名に対し、継続指導を行う。

② 「使用者の集い」を11月1日(金)、2日(土)にシンシアの丘10周年記念式典に合わせて開催する。

(5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

介助犬使用者の就労希望に対し、就労支援機関と連携を取りながら個々に合わせた就労・継続支援を行う。

2. 人材育成・研修

訓練部職員の技術向上、合同訓練体制の確立に取り組む。また、外部研修等へ職員を派遣する。

(1) 訓練技術向上

飼育管理担当者、パピー担当者等のすべての訓練部職員がOJTにより犬のハンドリング技術の向上を目指す。また、目指すゴールの明確化、訓練犬の評価方法の共有化を図り、訓練技術向上に努める。

① 訓練士の育成

訓練担当者へのOJTの他、合同訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図る。

② 介助犬訓練士研修生の養成

第14期研修生2名に対し、介助犬の育成・普及活動に関わる人材として養成する。また第15期研修生を募集する。

(2) 研修関連

- ① リハビリテーション関連、犬関連に関する研修会へ職員を派遣する。
- ② Career Dogs Australia より Lauren Elgie 氏を招聘し、繁殖・パピー育成プログラムについてコンサルティングを受ける。(豪日交流基金申請予定)

3. 相談・指導助言

介助犬希望者がより正確な情報を得られるように、体験会・相談会、体験入所等のプログラムの充実を図る。

(1) 介助犬希望者への相談支援

- ① 介助犬に関心のある障がい者を対象に、毎月の見学会に合わせて相談会を実施する。その他体験会(相談会同時開催)を年2回開催、見学会と体験会および体験入所を同時開催する。
- ② 半年から1年後に合同訓練を開始する候補者を対象に、春と秋を目途に体験入所を実施する。その他必要に応じて実施する。
- ③ 北海道せき損センター(北海道)、総合せき損センター(福岡県)にて介助犬啓発イベントを開催する。

4. 補助犬関係団体協力

良質な介助犬を育成するため、補助犬関係団体と訓練犬確保、繁殖情報の交換や繁殖協力関係の強化を図る。

(1) 補助犬育成団体との連携

日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会、兵庫介助犬協会等との繁殖、子犬の導入、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係継続に努める。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を充実させる。

- ① ADI(Assistance Dogs International)の認定申請を行う。また、ADI Conference (米国インディアナ州)へ職員を派遣する。
- ② Kyno-Logisch(スウェーデンの盲導犬育成事業者)と犬の導入についての情報交換を行い、必要に応じて訪問を検討する。
- ③ Career Dogs Australia と犬の導入等についての相談を行う。
- ④ 日本身体障害者補助犬学会への協力
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて「補助犬受け入れ/車椅子受け入れセミナー」開催への協力をする。

5. 調査研究

障がい者が介助犬等との生活をより円滑に送るための研究調査を行う。

(1) 各学会への参加、演題登録

- ① 第12回日本身体障害者補助犬学会への参加、学会団体会員に加盟し一般演題発表を行う。

- (2) リハ専門職等との補助具の開発
- ① 横浜市総合リハビリテーションセンター等のリハビリテーション工学士と介助犬使用に関する補助具の研究を行う。
 - ② 愛知県立芸術大学デザイン科と利用者ニーズに合わせた補助具作成に係る相談・研究を行う。
- (3) 肢体不自由者への相談支援
- ・ バリアフリー2019 : 4月18日(木)～20日(土) 開催 (インテックス大阪)
 - ・ ヨコハマヒューマンテックノラント'2019 : 7月26日(金)～27日(土) 開催 (パシフィコ横浜)
 - ・ 国際福祉機器展2019 : 9月25日(水)～27日(金) 開催 (東京ビッグサイト)

6. 地域公益活動

動物介在活動(AAA)・動物介在療法(AAT)への貢献

- (1) 動物介在療法として聖マリアンナ医科大学病院へ貸与した2代目勤務犬についてハンドラー看護師2名へのハンドリング指導を継続的に行う。
- (2) 箱根病院への勤務犬貸与について検討する。
- (3) 多摩病院、箱根病院、野のすみれクリニックでのAAAの実施、その他AAA/AAT導入に対する検討、監修および実施に協力する。
- (4) 障がい者、障がい児に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬の譲渡を行う。
- (5) 家庭犬飼育の質の向上を目的に、犬飼育委託ボランティア、センターボランティア、キャリアチェンジ犬引き取りボランティアに対して講習会を実施する。また、キャリアチェンジ犬引き取りボランティアに対しては交流会を行う。

7. 普及啓発

介助犬および補助犬法の認知度が低いという課題に対し、多くの人々に正しく理解いただくよう普及啓発活動を広く展開する。また、訓練犬受け入れについて交通機関、飲食店、店舗、ホテル等に交渉し、訓練犬受け入れについての理解を深める要請を広げる。

- (1) 普及啓発イベント・講演会の開催
 - ① 介助犬フェスタ2019の開催 5月18日(土)
介助犬への認知度向上および希望者・支援者の増加を目的として実施する。
 - ② 地域に根ざしたイベントの開催
 - ・介助犬総合訓練センター
 - 一般見学会 : 原則毎月第2土曜日(5月、3月を除く)
 - 子供向け見学会 : 7月26日(金)
 - オープンハウス : 3月7日(土)
 - 団体見学受入れ等 : 年間50件
 - ・本部
 - 介助犬夏休みイベント : 7月27日(土)
 - 介助犬教室 : 8月17日(日)

③ はたらくワンワンランドの開催

「ガンバレ！ 介助犬！ JA共済はたらくワンワンランド」を通じて、全国で障がい者を支える介助犬を紹介する福祉教育活動を展開する。

④ リハビリテーション専門職向けセミナー の開催

リハビリテーション専門職へ向け、介助犬の正確な情報を提供し、理解を深めていただく機会として第 56 回日本リハビリテーション医学会で市民公開講座を開催する。

⑤ イベント・講演会の受入れ

支援企業、小・中学校をはじめ各団体からイベント・講演会の依頼を受け、職員・PR 犬の派遣を行う。

(2) 介助犬デモンストレーター養成の実施

現在活動しているデモンストレーターの継続指導を行う。

(3) 普及啓発募金活動

本部およびセンター近郊で地元根付いた啓発を行うため月 1 回以上の募金活動を実施する。また、小学校・中学校・スカウト隊・慈善団体等主催の募金活動についても協力参加する。訓練犬のパブリック訓練と募金活動を兼ねるなど効率化を図る。

(4) 募金箱の設置

介助犬の認知度向上のため、新規設置店の拡大に取り組む。既に設置頂いている箇所に関しても継続的に設置頂ける様、取り組みを行っていく。

(5) PR犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加するPR犬の作業力維持、並びに広報部職員の技能向上のためのトレーニングレッスンを定期的実施する。訓練部と連携し、介助犬啓発活動に参加する新規PR犬を含めたPR犬の育成・訓練のため PR 犬ミーティングを定期的に行う。

(6) ボランティア募集・交流等

介助犬訓練・啓発に係るボランティアの募集を行う。各拠点にて年 2 回の交流会を実施する。

(7) 賛助会員の新規入会促進と継続支援者の確保

会報やイベントを通して会員とのコミュニケーションを図る。法人会員については、定期的な訪問する。また、本部を中心に企業への積極的なアプローチを行い、支援企業を開拓する。

(8) 『ほじょ犬の日』 5月22日(水)に向け、普及啓発イベント・講演会において積極的にPR活動を行う。

(9) 介助犬総合訓練センター開所 10周年記念式典を、11月1日(金)に長久手市文化の家にて開催する。また、10周年に向けて製作する着ぐるみの活用とホームページで展開するコミックを活用し啓発・支援に繋げる。

8. 広報活動

介助犬、補助犬、身体障害者補助犬法などについて、介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業等、対象者別に必要な情報提供に努める。

(1) マスコミ対応

新聞やテレビ番組などのメディアに迅速に対応するため、最新の映像制作や写真撮影を行い提供していく。

(2) 広報物の作成

リーフレット・ポスター等広報物を作成し広く配布・掲示する。各企業の広報紙、機関誌などへ提供する写真の種類の充実を図る。

(3) 会報誌の発行・ホームページの制作

会報委員会を設置し魅力ある紙面づくりに取り組み、年4回各4700部発行する。

リニューアルしたホームページを頻繁に更新し、会員獲得やグッズ販売の促進を図る。

(4) ツイッター・フェイスブック・インスタグラム等のSNSの活用

ツイッター・フェイスブック・インスタグラム等で支援者やファンが見たいと思う最新情報を発信しコミュニケーションを取ることでより身近に感じてもらう。また、社会貢献活動を支援・促進する取り組みをインターネット上で展開し、新たな支援者獲得を目指す。

(5) リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

介助犬適応者に対する処方や紹介が出来るリハ専門職への理解を深め、希望者・利用者へのリハ支援の連携に不可欠である専門職への理解を深めるためにブース出展、デモンストレーション等の機会を得る。

【2019年度学会一覧】

2019年1月4日現在

学会名	日程	開催地
第54回 日本理学療法学会大会	2019年5月25日(土)～5月26日(日)	アスティとくしま・徳島文理大学(徳島県)
第13回 国際リハビリテーション医学会世界会議	2019年6月9日(日)～13日(木)	神戸コンベンションセンター(兵庫県)
第56回 日本リハビリテーション医学会学術集会	2019年6月12日(水)～6月16日(日)	神戸コンベンションセンター(兵庫県)
第53回 日本作業療法学会	2019年9月6日(金)～8日(日)	福岡国際会議場(福岡県)
第17回 国際義肢装具協会世界大会	2019年10月5日(土)～8日(火)	神戸コンベンションセンター(兵庫県)
第12回 日本身体障害者補助犬学会	2019年10月5日(土)、6日(日)	京王プラザホテル(東京都)
第3回 秋季リハビリテーション医学会	2019年11月15日(金)～17日(日)	静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ(静岡県)

(6) リニモとの協働

リニモ駅長に就任しているPR犬はリニモイベントなどに参加する。

9. 補助・助成申請

(1) 平成31年度事業

助成決定事業

① 全国生活協同組合連合会:200万円

全国労働者共済生活協同組合連合会:100万円

申請事業:身体障害者の自立と社会参加のための介助犬普及啓発活動
～介助犬希望者への正しい情報提供動画の作成～

② 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団(シンシア基金):20万円

申請事業:海外(欧州)の補助犬育成に関する情報収集と情報交換

申請中事業

- ① 日本郵便年賀寄附金:1,905,000 円
申請事業:介助犬総合訓練センターの介助犬啓発・広報活動用車両の更改

申請予定事業

- ① 愛知県:15 万円(予定)
申請事業:愛知県内における介助犬啓発事業
- ② 長久手市:30 万円(予定)
申請事業:介助犬広報啓発事業
- ③ デンソーはあとふる基金:申請額未定
申請事業:トレーニング室へのロールカーテン取り付け(予定)
- ④ 中部ウォーカーソン:申請額未定
申請事業:パピープログラム研修
- ⑤ 豪日交流基金:申請額未定
申請事業:繁殖コンサルティングのため Lauren Elgie 氏招聘
- ⑥ 洲崎福祉財団:申請額未定
申請事業:箱根病院へ貸与予定の候補犬モンティの育成補助費
- ⑦ 長久手市ふるさと応援活動支援事業:申請額未定
申請事業:長久手市所属の訓練犬の獣医療費補助(予定)

10. 管理・運営

(1)法令及びガイドラインに準拠した法人運営

社会福祉法その他法令に沿った法人運営を行うことを目的に、厚労省指導監査ガイドラインを活用し自己点検を行う。

(2)総務部・広報部を統合し、「管理部」とする。

総務部が担っていた寄付収入に関する情報と広報部が担っていた啓発活動に関する情報を一元化し、ファンドレイジング戦略立案・活動を強化するため統合する。

(3)寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

安定した事業運営基盤の確立に向け、寄付収入および賛助会員数増加のためのファンドレイジング施策・コミュニケーション施策を検討、実施する。

(4)計画的な施設保守・営繕の検討・実施

介助犬総合訓練センターの建物診断及び建物維持保全にかかる改修計画策定に取り組む。保有車両について、最適及び計画的な保守に努める。

(5)業務効率化とコストダウン施策の検討・実施

限られた経営資源を有効活用するため、業務の見直しを図り業務効率を向上する。併せて、経費節減施策を検討、実施する。

(6)労働環境の整備

職員の働きがいと働きやすさを実現するため、柔軟な働き方が出来る就業環境の見直し、整備を行う。